

(2) 挨拶

第五世代コンピュータ国際会議実行委員会 委員長 田中 英彦

お早うございます。

実行委員会を代表致しまして、この第五世代コンピュータ国際会議にご参加下さいました皆様に、心より歓迎と感謝の意を表します。

第五世代コンピュータ・プロジェクトは、故元岡 達 教授の構想のもと、1990年代の知識処理指向の革新的なコンピュータを作るために、1982年に開始されました。

1981年の会議（FGCS'81）では、第五世代コンピュータの研究開発計画が紹介されまして、国際協力が求められました。その結果、同じようなプロジェクトがいろいろな国で実施されることとなりました。1984年の会議（FGCS'84）では、研究開発の具体的な計画が提出され、国内外から前期の研究結果が発表されました。この発表によって、私たちはこのプロジェクトの重要性を確認致しまして、研究開発の方向が明らかになりました。

1988年の前回の会議（FGCS'88）では、研究成果の大きな躍進が紹介されて、マルチPSIマシンを使ったデモンストレーションが行われました。私たちはいろいろな国の研究成果も享受できるようになりました。

FGCS会議は、参加者の高い水準と、世界中から提出される論文がこの分野において非常に質が高いという観点から、非常に重要な会議であることが、世界中の研究者によって認められています。

FGCSプロジェクトの研究目標は、論理プログラミングと並列処理によって、知識処理のパラダイムを将来の知的社会の基礎として確立す

ることです。これは非常に困難な未知要素の多い仕事でしたが、これまでこの分野で多くの研究者が偉大な成功をおさめています。

もっと詳しくお話いたしますと、コンピュータで知識を表現し、累積し、利用する方法を研究してまいりましたが、その結果このパラダイムの有効性が明らかになりました。現在まで口伝えとか書物を利用してきましたが、このパラダイムを、人類にとって文明を次の世代から世代へと伝えてゆく新しい方式にすることができるのです。

言い換えますと、20世紀の始めに空気中の窒素の固定法の発明によって、化学工業が拡大したように、現在我々が知っているいろいろな知識を固定する方法という、人類が進歩するのに非常に効果的な方法を発見できたのです。21世紀は、知識を伝承するという点から、本当に新しい世紀になると思います。

この新しい情報処理の世界は将来ますます大きくなっていくと信じています。特に、「常識」のような知識を含めた非常に大きな知識ベースが、フルスケールで出てきて広く利用されるようになると、知識処理パラダイムは実力を発揮しますから、私たちはそれから非常に大きな報酬が得られることでしょう。私たちがいろいろな分野で第五世代コンピュータ技術をエンジョイできるのは正にこれからなのです。

このような新しいパラダイムを創造するという同じような目標に向け、フランス、イタリア、スウェーデン、英国、米国の各国とワークショップを開催したり、米国やスウェーデンの研究所

との並列処理アプリケーションの共同研究を行うなど、緊密な国際協力を推進しています。

今回のFGCS'92は、一連のFGCS会議の最後の会議であります。私どもは現在10ヵ年プロジェクトの最終点に立って、プロトタイプ第五世代コンピュータを完成致しました。また、並列論理プログラミング言語、KLIを含む知識処理の基礎と並列推論マシン、PIMを開発致しました。

この会議の目標の1つは、FGCS10ヵ年プロジェクトの意義を評価して、将来の方向を再確認するために、研究開発の最終結果を発表することです。

FGCS'92は5日間に亘って開催されます。最初の2日間は、FGCSプロジェクトの最近の成果の紹介に充てまして、国連大学国際ソフトウェア工学研究所所長のBjerner博士やシラキュース大学のRobinson教授のような傑出した研究者の招待講演が行われます。

残りの3日間は、招待論文や一般論文を発表するテクニカルセッションに充てまして、ICOTで実施された研究の詳細な成果の紹介と、オックスフォード大学のHoare教授による招待講演、それに「21世紀の情報処理への出発点 (A Springboard for Information Processing in the 21st Century)」という表題で、インペリアル・カレッジのKowalski教授を座長にお迎えして、パネル討論が行われます。

会議期間中、私どもは、FGCS10ヵ年プロジェクトの研究成果をデモンストレーションで紹介致します。並列推論マシンといろいろな種類の並列アプリケーション・プログラムをご覧いただければ、このマシンの有用性が明らかになることでしょう。

勿論、このようなデモンストレーションを評価して下さるのは皆さんです。どうか、心ゆくまで存分に注意深く観察し、評価なさってください。技術水準は、大半の方が満足なさるくらい、非常に高いものであると信じています。

この会議が、全世界から来られた参加者の皆さまの活発な討論を通じて、この分野でのこれまでの研究成果のすべてを明らかにして、マイルストーンであることを確認し、第五世代コンピュータの研究、開発、応用のための将来の方向を提言するにふさわしい場所になるようにと希っております。知識とその処理技術が人類共通の財産であることは間違いありません。

参加者の皆様全員が、知識処理の点でコンピュータ科学の新時代が開かれたという、熱い期待を心にこめてお国に戻られるように祈っております。また、更に第五世代コンピュータを研究している間に培われた全世界の研究者間の友情とフランクな協力関係が、大きく育てて広がりまして、そしてこの力強い団結が、輝かしい人類の将来のために、国際協力の促進に役立てばよいと希っております。

最後に、世界各地からおいで頂いた参加者の皆様全員と、この会議の準備に多大の努力を払ってくださった方々に心から感謝の念を申し述べたいと思います。

特に、このような魅力的なプログラムを作成するためにご努力くださったプログラム委員会のメンバー、たくさんの論文を査読してくださった多くの研究者、この会議の企画運営にいろいろ力を尽くしてくださった実行委員会のメンバー、この会議のいろいろなデモンストレーションと準備のために非常に熱心に働いてくださったICOTの職員の方々に、心よりお礼を申し上げます。

どうも有難うございました。